



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月4日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社 あみやき亭
コード番号 2753 URL <http://www.amiyakitei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 啓介
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 千々和 康

TEL 0568-32-8800

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	16,777	—	1,712	—	1,744	—	980	—
22年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	14,321.79	—
22年3月期第3四半期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
23年3月期第3四半期	14,181	—	11,274	—	79.5	164,616.87	—	
22年3月期	13,352	—	10,500	—	78.6	153,315.82	—	

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 11,274百万円 22年3月期 10,500百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	1,500.00	—	1,500.00	3,000.00
23年3月期	—	1,500.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	1,500.00	3,000.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,500	22.4	2,030	10.7	2,100	10.7	1,042	2.8	15,214.34

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

P.3「その他の情報(3)会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要」をご覧ください。

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 68,488株 22年3月期 68,488株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 一株 22年3月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 68,488株 22年3月期3Q 68,488株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。業績予想の前提となる過程及び業績予想のご利用に当たっての注意事項についてP.3【当四半期の連結業績等に関する定性的情報】(3)連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

平成22年3月期第3四半期末より、連結決算を開始した為、前年実績については記載しておりません。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(第3四半期連結累計期間)	6
(第3四半期連結会計期間)	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アジアを中心とした新興国向けの輸出の増加による企業業績の回復はみられるものの、年後半からの円高による輸出産業の企業心理の冷え込みに加え、エコカー補助金の終了、家電エコポイントの縮少等による消費の反動減など国内景気の先行きに対する不透明感は払拭できない状況が続いております。

当業界におきましては、一部に明るい兆しは見られるものの、個人所得の低迷や雇用環境への不安による節約志向が継続しており外食を手控えるなどの生活防衛意識は強く、取り巻く経営環境は引続き厳しい状況で推移しております。

このような環境の下、当社グループといたしましては、「お客様に喜んでいただき、選んでいただく店舗作り」を目指し、「食肉の専門集団」である強みを活かした食肉の知識と技術を駆使し、お客様にとって「安心・安全で美味しくて安い」価値感・満足感のある商品を提供するなど他社との差別化を図り、既存店の強化を行ってまいりました。

当第3四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、「あみやき亭」2店舗（大垣店、豊橋下地店）、「美濃路」2店舗（関店、鈴鹿店）、「焼肉スエヒロ館」2店舗（立川店、日野店）を新規出店しましたが、「かるび家」3店舗（八王子店、西川口店、品川駅前店）、居酒屋「楽市」1店舗（大泉学園店）、牛しゃぶ「すえひろ」1店舗（銀座コリドー店）を退店したため、173店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高16,777百万円、営業利益1,712百万円、経常利益1,744百万円、当期純利益980百万円となりました。

なお、前年同期比の表示は、連結決算が前年第3四半期末より開始いたしましたので省略いたしております。

また、株式会社あみやき亭単体の当第3四半期累計期間の業績は、売上高14,546百万円（前年同期比16.5%増）、営業利益1,705百万円（前年同期比28.9%増）、経常利益1,769百万円（前年同期比29.0%増）、当期純利益948百万円（前年同期比26.8%増）と増収増益となり、第3四半期累計期間では過去最高となりました。

<焼肉部門>

焼肉部門の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、2店舗新規出店、1店舗退店（かるび家品川駅前店）した結果、111店舗となりました。内訳は、あみやき亭95店舗、かるび家11店舗、スエヒロ館5店舗であります。

当社が経営する「あみやき亭」では、品質の向上に徹底的にこだわり「お客様にとって価値感・満足感の高い商品」の提供に努め、既存店強化に努めてまいりました。

株式会社スエヒロレストランシステムが経営する「かるび家」につきましては、日々発注・日々配送による品質向上による商品力の強化を行ってまいりました。また、既存店の店舗改装を行い、国産牛中心の商品を提供する「スエヒロ館」へ変更を順次行っております。

以上の結果、焼肉部門の当第3四半期連結累計期間の売上高は、12,971百万円となりました。

<焼鳥部門>

焼鳥部門の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、52店舗であります。

焼鳥部門は、当社が経営する「元祖やきとり家美濃路」52店舗であります。

焼鳥部門におきまして、焼き師認定制度を導入し、炭火で1本1本手焼きする「焼き」の技術向上に努めるとともに、「美味しくて、安い」焼鳥や釜めしの提供に努めました。

また、店舗運営力向上策といたしまして、店長育成プログラムを刷新し、接客・サービスのレベル向上に向けた社員教育の取組みを行ってまいりました。

以上の結果、焼鳥部門の当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,878百万円となりました。

<その他部門>

その他部門の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、10店舗となりました。

内訳は、株式会社スエヒロレストランシステムが経営する、レストラン「SUEHIRO」4店舗、ハンバーグ・ステーキ「スエヒロ館」1店舗、居酒屋「楽市」5店舗であります。

レストラン「SUEHIRO」につきましては、平成22年11月1日にレストラン「SUEHIRO川崎店」を改装し、「食肉の専門集団」である当社グループの強みを活かした低価格の「100%国産ハンバーグ」「国産牛ステーキ」を提供するハンバーグ・ステーキの「スエヒロ館川崎店」として新たにスタートいたしました。

また、居酒屋「楽市」につきましても、メニュー開発を行うとともに商品の品質向上やお客さまの立場に立った接客・サービスの向上に努めてまいりました。

以上の結果、その他部門の当第3四半期連結累計期間の売上高は919百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産額は、14,181百万円となり、前連結会計年度末と比較し829百万円増加いたしました。主な要因は建物（純額）と現金及び預金の増加によるものです。

負債総額は、2,907百万円となり、前連結会計年度末と比較し55百万円増加いたしました。主な要因は資産除去債務の増加によるものです。

純資産総額は、11,274百万円となり、前連結会計年度末と比較し773百万円増加いたしました。主な要因は利益余剰金の増加によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年3月期通期連結業績予想につきましては、平成22年4月9日公表の業績予想から変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益、経常利益はそれぞれ12百万円減少しており、税金等調整前四半期純利益は102百万円減少しております。

また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は232百万円であります。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,658	5,304
預け金	167	83
売掛金	3	4
商品及び製品	43	33
原材料及び貯蔵品	98	59
繰延税金資産	101	184
未収還付法人税等	120	80
その他	253	208
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	6,447	5,958
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,484	4,103
構築物(純額)	379	367
機械及び装置(純額)	188	187
車両運搬具(純額)	5	6
工具、器具及び備品(純額)	222	224
土地	489	489
建設仮勘定	12	17
有形固定資産合計	5,783	5,396
無形固定資産		
ソフトウェア	13	19
その他	46	48
無形固定資産合計	59	68
投資その他の資産		
投資有価証券	9	11
長期貸付金	245	259
繰延税金資産	200	149
差入保証金	1,010	1,108
その他	434	409
貸倒引当金	△8	△9
投資その他の資産合計	1,891	1,928
固定資産合計	7,734	7,393
資産合計	14,181	13,352

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	810	718
未払金及び未払費用	1,145	1,001
未払法人税等	290	597
引当金	105	212
その他	262	251
流動負債合計	2,615	2,781
固定負債		
資産除去債務	232	—
引当金	2	2
負ののれん	0	0
繰延税金負債	18	11
その他	39	57
固定負債合計	292	70
負債合計	2,907	2,852
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,426	2,426
利益剰余金	6,376	5,601
株主資本合計	11,277	10,502
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3	△1
評価・換算差額等合計	△3	△1
純資産合計	11,274	10,500
負債純資産合計	14,181	13,352

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	16,777
売上原価	6,143
売上総利益	10,634
販売費及び一般管理費	8,921
営業利益	1,712
営業外収益	
受取利息	12
受取配当金	0
協賛金収入	10
その他	10
営業外収益合計	34
営業外費用	
その他	2
営業外費用合計	2
経常利益	1,744
特別利益	
受取保険金	4
店舗閉鎖損失引当金戻入額	8
特別利益合計	12
特別損失	
固定資産除却損	50
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	89
その他	4
特別損失合計	144
税金等調整前四半期純利益	1,612
法人税、住民税及び事業税	712
法人税等調整額	39
法人税等還付税額	△120
法人税等合計	632
少数株主損益調整前四半期純利益	980
四半期純利益	980

(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)	
売上高	5,697
売上原価	2,103
売上総利益	3,593
販売費及び一般管理費	3,021
営業利益	572
営業外収益	
受取利息	3
受取配当金	0
協賛金収入	5
雑収入	5
営業外収益合計	14
営業外費用	
その他	0
営業外費用合計	0
経常利益	586
特別利益	
受取保険金	2
店舗閉鎖損失引当金戻入額	0
特別利益合計	2
特別損失	
固定資産除却損	16
その他	4
特別損失合計	20
税金等調整前四半期純利益	568
法人税、住民税及び事業税	235
法人税等調整額	37
法人税等還付税額	△46
法人税等合計	226
少数株主損益調整前四半期純利益	342
四半期純利益	342

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第3 四半期連結累計期間
(自 平成22年4月1日
至 平成22年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,612
減価償却費	531
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	89
引当金の増減額(△は減少)	△90
有形固定資産除却損	50
受取利息及び受取配当金	△12
売上債権の増減額(△は増加)	1
たな卸資産の増減額(△は増加)	△49
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△38
仕入債務の増減額(△は減少)	92
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	44
未払消費税等の増減額(△は減少)	3
その他の流動負債の増減額(△は減少)	8
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	△9
その他	0
小計	2,236
利息及び配当金の受取額	10
法人税等の還付額	78
法人税等の支払額	△1,010
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,314
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△3,500
定期預金の払戻による収入	3,500
有形固定資産の取得による支出	△740
無形固定資産の取得による支出	△1
差入保証金の差入による支出	△65
差入保証金の回収による収入	146
貸付けによる支出	△4
貸付金の回収による収入	18
その他	△36
投資活動によるキャッシュ・フロー	△682
財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の返済による支出	△1
配当金の支払額	△193
財務活動によるキャッシュ・フロー	△194
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	438
現金及び現金同等物の期首残高	1,888
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,326

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(開示の省略)

セグメント情報、その他の注記事項、個別情報、補足情報等は第3四半期決算短信における開示の必要性が大き
くないと考えられるため開示を省略しております。